久喜市立久喜小学校公開研究会（2020年2月12日）

学校教育目標の見直しから始める カリキュラム・マネジメント

文教大学教育学部
浅野信彦
nasano@bunkyo.ac.jp

1

1

カリキュラム･マネジメントに関する私の立場

- 私の専門は「カリキュラム研究」「授業研究」「教師教育」です。これらを区別せず一体のものと捉え、理論と実践の両面から研究しています。
- カリキュラムの本質を子どもの「学び」と捉えると、個々の授業の中に現れる具体的な子どもの姿は、どれだけ些細な言動であっても「その子なりの学びの表現」です。こうした具体的な事実を多様な視点から捉え、一人ひとりの生活経験や子ども同士のかかわり、教師の働きかけなどの文脈に照らして、子どもの内側で「何が学ばれているのか」を丁寧に捉え直していくことが必要です。
- 生活科や総合的な学習の時間を中核として「カリキュラム･マネジメント」の充実を図ることは、既存の教科の枠組によって狭められてきた教師の「授業観」や「子ども観」を変革する可能性があります。こうした教師の専門的な力量形成を支える校内授業研究や研修および教員養成の在り方を模索しています。

2

2

概要

1. カリキュラム・マネジメントがめざすもの
2. 学校教育目標を見直すことの意味
3. 久喜小学校の研究から学ぶこと

3

3

1. カリキュラム・マネジメントがめざすもの

①「カリキュラム」の本質を踏まえ、
②これからの社会で求められる「学び」を見据え、
③学校の教育活動全体を通して育成をめざす「資質･能力」を明確化し、
④教科によって分断されがちな子どもの学びを「つなぐ」視点から単元を構想し、日常の授業の中で子どもの姿を見取る。
⑤その過程で教職員の協働を促し、学校の組織文化を変革し、「開かれた学校」を実現する。

⇒「社会に開かれた教育課程」へ

4

4

①「カリキュラム」の本質

- 学習指導要領
  - ･･･**国が定めた教育課程編成の大綱的な基準**（＝国家基準）
- 教育課程
  - ･･･「学校において編成する教育課程とは、**学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画**である」（学習指導要領解説より）
- カリキュラム
  - ･･･ラテン語の「クレレ」（currere）が語源。「走路」や「人生の来歴」を意味していた。教育学の用語としては、教育課程とは区別され、**「子どもの学びの経験の総体」「学びの履歴」**などと定義される。

5

5

②これからの社会で求められる「学び」

- 情報革命や技術革新を背景に、工業社会から知識基盤社会への転換が進んでいる。**人々のニーズは多様化し、解決すべき社会的課題は複雑化**している。
- こうした課題に対応するには、**正解のない問題に対して様々な知識を組み合わせて活用**したり、**新たなアイデアを取り入れて今までにない方法を試したり**、試した結果「うまくいったこと」だけでなく「うまくいかなかったこと」も**振り返って、次につなげる**ことが必要である。
- そのためには、できるだけ**多様な経験や知識、得意分野、異なる価値観や考え方を持つ人々が、対等な立場でコミュニケーション**を取りながら、協力して取り組んだ方がよい。
- 多様な人々が課題解決に参加し、対話を繰り返す中で、個別の知識やアイデアがつながり合い、**「新たな知」が創出**される。

6

6

知識基盤社会の中で何が求められるのか

- 学校で学んだ知識にとらわれず、社会の中で新たに直面した課題や自己のニーズに応じて、常に最新の知識を**学びつづける**こと。
- 外部から知識を取り入れるだけでなく、ときには自らのアイデアを他者に伝え、または他者のアイデアを受け入れて、ともに課題解決に取り組む中で**「新たな知」の創出（＝イノベーション）に参加**すること。
- 学校で教科の知識を学ぶときも、地域の課題を解決したり自分が興味のあるテーマを深めるために、その知識が**「どのように役立つか」**、その教科を学ぶことが**「どのように意義があるか」**などを考えながら学べるよう、教育システムを変革すること。
- 知識とは、客観的でも普遍的でもなく、共同体のコミュニケーションによって構成されるものとみなす**「構成主義」**に立つ。

7

7

③育成をめざす「資質･能力」の明確化

新学習指導要領

総則第1の3（資質･能力の3つの柱）
- **知識･技能の習得**
- **思考力、判断力、表現力等の育成**
- **学びに向かう力、人間性等の涵養**

総則第2の2（教科等横断的な視点に立った資質･能力の育成）
- **学習の基盤となる資質･能力**
  「言語能力」「情報活用能力」「問題発見･解決能力」等
- **現代的諸課題に対応して求められる資質･能力**

「イノベーション力」
⇒「予測困難な時代が来てもそれを乗り越えるために必要な力」
・３つに分類（本校では「３A（スリーエー）」と呼ぶ）され、全部で７つの資質・能力から構成されている

３A

７つの資質・能力

Assistance 自分の自信につながる経験		Application 新しい価値を創造する思考			Approach より良いものを目指そうとする態度	
ビルドアップ型	スパイラル型					
知識・技能	自律的態度	論理的思考	批判的思考	創造的思考	探究的態度	協働的態度
各教科や人生で学び蓄積された知・技能を生かしていく	自分の認識に従い、自分はこんな方法で解決しようと決めて実行する	筋道を立てて自分の考えをもつ	他者の認識・意見や各情報を分析・吟味し、最適解にたどり着く力	自分の Assistance に基づいて、課題と結び付けて自分なりの意味をもたせた考えをもつことができる力	課題に対して興味をもって、どんな知識が更に必要か考えたり、どんな方法なら解決できそうなのか、課題の本質について探究したりしようとする態度	自分の認識の更新を目指し、さまざまな考えをもつ他者と新たな知を創造しようとする態度

久喜小学校

2013-2017（H25-29）
新教科「夢創造科」の開発
「科学技術に親しみ探究･創造する児童の育成」をめざす。

「自律的態度」「協働的態度」が身に付いた！
各教科でも生きる汎用的能力が向上した！

総合的な学習の時間の内容を精査しよう！
教科横断的な単元づくりに力を入れよう！

8

8

資質･能力を明確化することの意義

- 子どもはリアルな課題を自分事と捉え、試行錯誤しながら解決に向かっていくとき、様々な力を総合的に発揮する。
- 子どもに発揮させたい力を分類･定義し、構造化することは、**学習過程における子どもの姿を教師が捉えるための枠組**を準備しておくこと。
- 従来の教育活動の中でも子どもは様々な力を発揮していた。しかし、**教師が「教科の目標」から視点をずらすことではじめて見えてくる姿がある。**そのための仕掛けとして教科横断的な視点から「〇〇力」を設定することは有効。
- 逆に、設定した「〇〇力」にとらわれて、子どもの姿を狭く表面的にしか捉えられなくなってしまうことも。本末転倒。

9

9

④学びを「つなぐ」視点からの単元構想

- 全教科･領域の単元配列を一覧できるようにし、生活科･総合的な学習の時間との関連付けを可視化する。
- 他教科･領域とのつながり、子どもたちの「これまで」から「これから」に向かう学びのつながり、地域とのつながりなどをイメージしながら単元を構想する。
- 学年での話し合い、全校での研究協議、家庭や地域への情報発信やゲストティーチャーとの打合せなどが円滑に。

★一方で、教師が「次へ、次へ」と前のめりになってしまうと･･･

- 意図に沿う活動をしている子どもだけに注目してしまう。
- 予想外の子どもの反応を見取れない。臨機応変の応答ができない。
- 子どもの中に「問い」が生まれてくるのを待てない。子どもが自分で動き出すのを見守れない。

↓

- **一定期間ごとに計画と子どもの実態とを照らし合わせ、修正を図るため、「振り返り」の場をあらかじめ設定しておくことが必要。**
- **これを校内研修に組み込み、教師間の対話を通じて「振り返り」が促進され、計画が更新される場を設定することが重要。**

10

10

⑤校内授業研究を核とした教師の協働

- カリキュラム･マネジメントを具現化できるかは**校内授業研究の充実**にかかっている。
- 授業者の思いや願いを尊重しながら、それぞれの教師が自らの**教育的鑑識眼**をもとに子どもの姿を捉え、味わう。
- 子どもの姿の捉え方には、個々の教師の経験やセンス、知識や教養が必然的に反映される。しかし、そうした違いは優劣ではなく、個性である。
- 研究協議では、一人ひとりの教師が捉えた子どもの姿を表出し、語り合い、多様な見方を交流することによって、子どもの「学び」を捉え直していく（**教育的批評**）。

※「教育的鑑識眼」「教育的批評」は、米国の教育学者アイスナー(Eisner,E.W.）が1970年代から提唱している概念。

- 「授業カンファレンス」を提唱した稲垣忠彦（東京大学名誉教授）は「子どもの表現に対する鑑賞力･批評力」の重要性を指摘している。

11

11

2. 学校教育目標を見直すことの意味

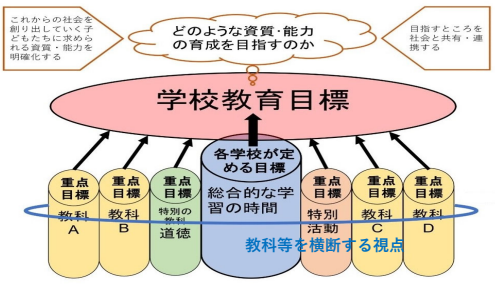

図1　学校教育目標と教育課程の構造（浅野,2020）

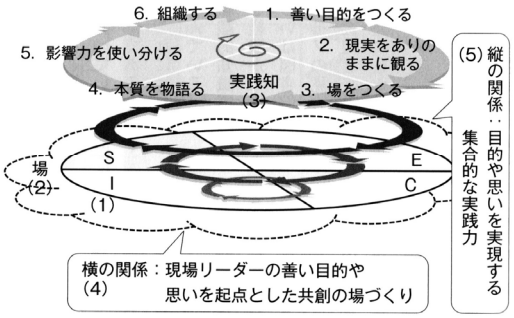

図2　イノベーションを起こす組織（野中,2017）

- 学校教育目標は「お題目」であってはならず、**地域や社会と目指すところを共有し、全教職員がその達成に向けて、あらゆる教育活動を通じてその実現をめざす**ものでなければならない。
- 数値目標のような狭い目標設定では、教育活動の柔軟性や教師の自律性が損なわれ、学校教育になじまない。ある程度、理念的・抽象的な言葉で表現せざるを得ない。

- カリキュラム･マネジメントを「**組織的な知識創造のプロセス**」（野中郁次郎,一橋大学名誉教授）と捉えたい。
- 学校という場で、**教師が互いの感性、感覚、感情を共有し、多様な知（暗黙知を含む）を統合しながら、夢や理想の実現に向けて卓越性を追求**する。
- 学校教育目標は、**教師集団の思いや理想の表現**でもある。理想はじめからあるのではなく、日々の実践を通じて追求するものである。

12

12

3. 久喜小学校の研究から学ぶこと

- トップとミドルがリーダーシップを発揮し、教職員全員が本気でイノベーション力の育成に取り組んでいること。
- 子どもたちが地域の課題解決に本気で取り組めるような新たな単元づくりに挑戦していること。
- 全教職員が当事者意識をもち、特定の教師の悩みや葛藤も自分事と捉えて、協働で課題解決に向かっていく姿勢があること。
- 誰でも使えるツールやガイドブックを作成したり、情報をデジタル化していつでも参照できるようにするなど、カリキュラム･マネジメントの基盤整備に力を入れていること。
- カリキュラム･マネジメントの中核に授業研究が位置づけられ、その中で子どもの学びの捉え直しが大切にされていること。

13

13